

研究会会員の皆様、こんにちは。寒くなってきましたね。

随分ご無沙汰しておりました。前回の例会は4月で、なんと、会報発行は半年ぶりです!

半年間、いかがお過ごしでしたでしょうか。生きてると色々なことがありますよね…。

では、久しぶりの会報、いってみましょう。

皆さんも、何か載せたいこと(告知、連絡、紹介など)、そしてご意見・ご感想などありましたら、ご連絡下さいね。

目次 1. 前回例会報告

2. コラム

3. 次回例会案内(次回は11/23。京阪三条か東山近くの「東山いきいき市民活動センター」にて行いますよ。)

4. 編集後記

1. 第九回例会報告

○日時: 2014年4月6日(日) 13:30~16:30頃 ※受付13:10~

○話題提供者: 1. 北田朋子

2. 友寄広さん

○内容: 1. きただのザルツブルク体験報告~オルフ研究所ってどんなところ(仮)

2. “理想の音楽療法”

○参加人数 15名

○会計報告 すみません、手元に資料がなくて、しかも探し出せる自信がないです…。

今度からちゃんとします。ごめんなさい…。

○感想

いや~っ! 北田さんがこの先、京都に帰ってきて何を始めるのか楽しみですな~

思い立ったら、あと先考えず北九州でも、ザルツブルグでも、どこでも飛んでいく! その行動力にはたじろぎ頭が下がります。きっとこの2, 3年の勉強が貴女の細胞の隅々に入り込み、新たな展開が起こるでしょう! たとえ無一文で京都に戻られても心配ない心配ない! たぶん(笑)(T.H)

Tさん、感想をありがとうございました。

京都に居る頃は自分は行動力がない方だと思っていたんですけどね…。どこでどうなったか…(笑)。

無一文で京都に戻っても心配ないというお墨つき、ありがとうございます! たぶんと言わず!

2.コラム

地球の裏側で考えたこと

北田朋子

この研究会のHPの掲示板には少し書いたのですが、7月20日～24日までアルゼンチンのブエノスアイレスであった、「PCE2014」という学会に行ってきました。

「PCE」というのは、WAPCEPC (The World Association for Person-Centered and Experiential Psychotherapy and Counseling: パーソンセンタード&体験過程心理療法&カウンセリング世界学会)の大会ということのようです。「世界の学会」なんて、行こうというつもりはなかったのですが、私の大学院の指導教員である村山正治先生が、その大会で基調講演をする世界の10名の中に選ばれて、それなら!と行くことにしました。そんな機会がないと地球の裏側までなかなか行けないから行ってみたいかつたこと、アルゼンチンタンゴを聴きたかつたというのがありますが…。



ただ、ふら～とついでいくつもりが、あれよあれよという間に発表もすることになりました。単独ではなく2人での発表なのですが、英語でやるのです!最初はかなり引き気味でしたが、結局、最後には何とロビン・ロイド先生のお力お借りして、何とか準備することができました。

当日までの準備のバタバタさ、行き帰り(計算すると家から約40時間かかっているのです!)や、現地での珍道中ぶりなど、語るとどんどん出てきますが(また聞いてください)、とりあえず、どんな感じだったかということや、自分が感じたことをお伝えしたいと思ったので、書いておこうと思います。

発表は、「Trails of the Therapist-Centered Training for graduate students -Constructing one's foundation as a therapist-」というタイトルでやりました。(とても賢そうですね。ほとんど、共同発表者の白井祐浩さん(志學館大学)のお仕事ですが…)つまりは、「大学院生への『セラピスト・センタード・トレーニング』の試み-自分の臨床の基盤を創る』みたいな感じでしょうか。自分の臨床の基盤を創ることや、それを育てていくことを目的にしたグループワークで、私は自分自身の困りごとを扱ってもらったのですが、それともう一人の大学院生の体験を「事例」として使い、まとめて発表したのです。

発表する会場は、高校の教室のような所でマイクもなく、緊張し過ぎず済みそうだなあ…と思いました。また、現地はスペイン語が母語なので、英語からスペイン語への通訳の方がおられるのですが、その方はとてもにこやかに接してくれました。時間が近づくと、日本から一緒に来た先生や仲間たちも含め、結構教室一杯の方が来られ用意した資料が足りないぐらいで、うれしいながらもドキドキでした。



発表は、正直、(英語なので)自分が何を言っているのかわからなくなりそうになったのですが、何か、「伝えたい」という気持ちがとても大きくなり、とにかく一生懸命話していました。聴いている方々は、うなずいたり、にこにこしていたり、時々笑ってくれたりして、終始とてもフレンドリーな雰囲気でした。最後には長い拍手でびっくりしました(日本の某学会と全然違う雰囲気…)。質問もいくつか出て、終了後は「Gracias(ありがとう)!」と笑顔でハグして帰られたり、写真を取ろう!となったり、本当に日本の学会では見たことのない暖かな雰囲気でした。

発表が終わり思ったのは、つたない英語でも、文化も違う国

でも、伝えようと思って話すとなんか伝わるんだなあということ。そして、発表の中で聴いている人たちが一番反応して笑ってくれたのは、私のごく個人的な体験や思いを話している時で、直前まで「こんな自分だけの(狭い)ことだしなあ…。文化も違うし、これを言ってもわかりにくいよなあ…。」と削ろうとしていた箇所でした。それは、私が大学院に入って以来散々色々な形で言われている「自分が体験したこと、感じたことが大事だし、その方が伝わるよ」ということを、身をもって体験したことになりました。「自分が思っただけだし…」とか、「自分の体験したことなんて大したことないし…」と、どうしても思ってしまったのですが、今回ははっきりと「ああ、伝わった」という実感がありました。もしかしたら案外、母国語が違う場所の方がそれがわかりやすかったのかもしれませんが。地球の裏側に行って、考えたのは「自分」のことという、広いんだか狭いんだかわからない話ですが、こんなに遠くで文化が違う人たちも、自分のことについて悩む内容に共通点があるんだ!というのは、驚きもあり、うれしくもありました。

そして、これらの体験をした後には、音楽療法をしている人たちともつなげて考えました。なので、今は、「その人らしい音楽療法」をやっていくことをお手伝いすることをしたいなあとか、実践している人たちに『それは大したことあるよ!』と言いたいなあという気持ちになっています。ですので、またそんなことをテーマにした例会も出来たらなあ…と考えています。

(ブエノスアイレスでの写真…アルゼンチンタンゴ鑑賞、発表後のショット、カラフルな「カミニート」地区…を載せました。パソコンの方、重すぎたらごめんなさい。携帯の方、見れなくてごめんなさい…。)



3.次回例会

京都音楽療法研究会 第10回例会のお知らせ

さて、次回の例会のお知らせです。紅葉も見られ始めるころでしょうか。

連休の中日で、お忙しいかもしれませんが、そして、京都は人が多いかもしれませんが、ぜひぜひお越しください。

今回の例会内容は、「例会にやって欲しい人のリクエストありましたら～」の呼びかけに0さんが、「板谷さんにぜひお願いしたいです。」というメールをくださり、やっと実現するものです。きっと、参加したら元気になれる!これは必見です(笑)!

日時：2014年11月23日(日) 13:30~16:30 ※受付 13:15~

内容：「音楽療法における視覚刺激の効果」

実践：板谷 優子さん

伴奏：井上 みちよさん



《板谷さんより》

皆さんこんにちは。板谷優子です。今回は『視覚刺激の効果』についてお話ししたいと思っています。ここでいろいろ書く事を読んでいただくより、見ていただくほうがわかりやすいので、当日は普段のセッションのとおり進めて行きます。

音楽療法に携わって十数年、音楽を使わなくてもクライアントとコミュニケーションが取れる方法に気がつきました。施設を訪問するときの服装です。「こんにちは」と言うだけで「ええ色やな」「あら可愛い」と「今日は何があるの?」と声を掛けて下さいます。高齢者の服装は8割地味な色になります。自分の洋服ひとつで明るい華やかな雰囲気を作れます。ここまで読んで「??音楽関係ないやん??」と思われた方がいらっしゃるでしょう。これは始まる前からセンターを注目させるための手段に過ぎません。でもそれが私のセ

セッション案では「導入」の部分にあり、『今日は何を歌うんだろう』とクライアントに期待をさせる瞬間でもあります。もちろん期待はずれの時もありますが、とても大切な事だと思いながら続けてきました。

当日は 10 年コンビを組ませていただいている、井上みちよさんのピアノ伴奏で、何パターンか衣装チェンジをしながら普通のセッションのとおり進めて行く予定です。

申 込 : 11/19(水)までにメール(研究会宛。上記参照。)or ハガキ(畑陽子様宛)にて。

《大事なこと》 お申込なしに来られた方には、資料等の用意が出来ません。そんな場合は、資料原本を、受付でお貸ししますのでご自分でコピーに行ってくださいね♪
逆に申し込んでいて来られなくなった方には、資料の用意をしております。
なので買い取りをお願いしますね♪

参加費 : 場所代(400 円)を、参加者で割ります。別途、資料コピー代がかかることがありますので、小銭をご用意してご参加くださると助かります。

場 所 : 東山いきいき市民活動センター2F 音楽室

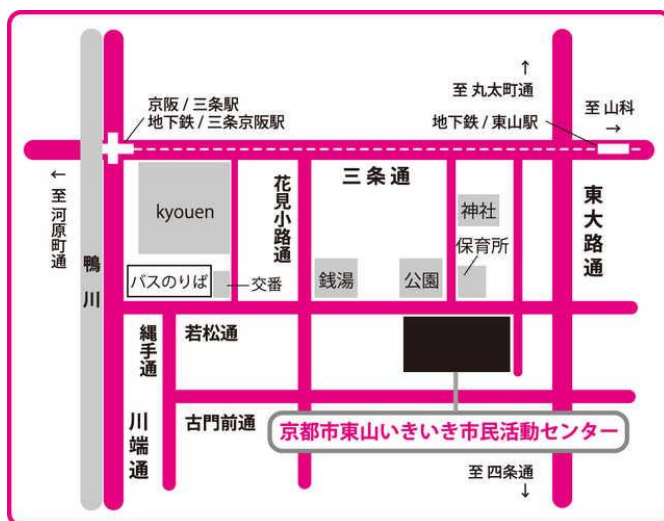
東山いきいき市民活動センター 〒605-0018 京都市東山区花見小路通古門前上る巽町450番地
(花見小路通古門前上る東入る南側。保育所と公園の向かい側にあります。)

■最寄駅・バス停■各駅、停留所より徒歩5～7分です。

【京都市営地下鉄東西線】三条京阪・東山 【京阪本線】三条

【京都市バス】5, 12, 46, 100, 201, 202, 203, 206 系統 … 東山三条

5, 10, 11, 12, 59 系統 … 三条京阪前



4. 編集後記～下関だより～

本当にご無沙汰しておりました…。会報、北田の話ばかりですみません。

私の半年はとりあえず、前回の例会でご報告したように、3 月末はザルツブルクに行き、オルフ研究所に一週間程度通う…という体験をしてきました。「子どもに音楽を教えることで(音楽家を育てるのではなく)人間を育てる」という視点が印象的でした。そして、7 月には、コラムに書いたアルゼンチンのプエノスアイレスに行き、10 月には臨床心理士試験受験…ととても充実した(ように見える)半年間でした。いや、充実していたことはしていましたが、何でしょう、以前のような「みんなで話したい!」というよりも「ふたりでじっくり話したい」みたいな感じに、狭まっているような、エネルギーが低下しているような、そんな感じでした。そして、そんな風に、自分の状態が時期によって、そして、日々色々なんだなあ…、決していつも同じではないんだなあ…ということを実感した半年だったように思います。

下関生活も長くなり、随分慣れてきましたが、来年からは京都を拠点にしようと思います。それでもしばらく住処は残す予定です…。ふく(ふぐ)を食べに来たい方、今のうちですよ(笑)。